

# 大分県細胞診学会 スライドカンファレンス

大分大学診断病理学講座

門脇 裕子

症例: 70代 男性

現病歴: 左腎癌術後(X-13年), 膵転移性癌術後(X-1年)である。経過途中でCT画像上、膵鉤部に腫瘍性病変を指摘された。病変は増大傾向であり、EUSでは同部位にモザイク状病変が認められたため、EUSFNAで穿刺施行された。

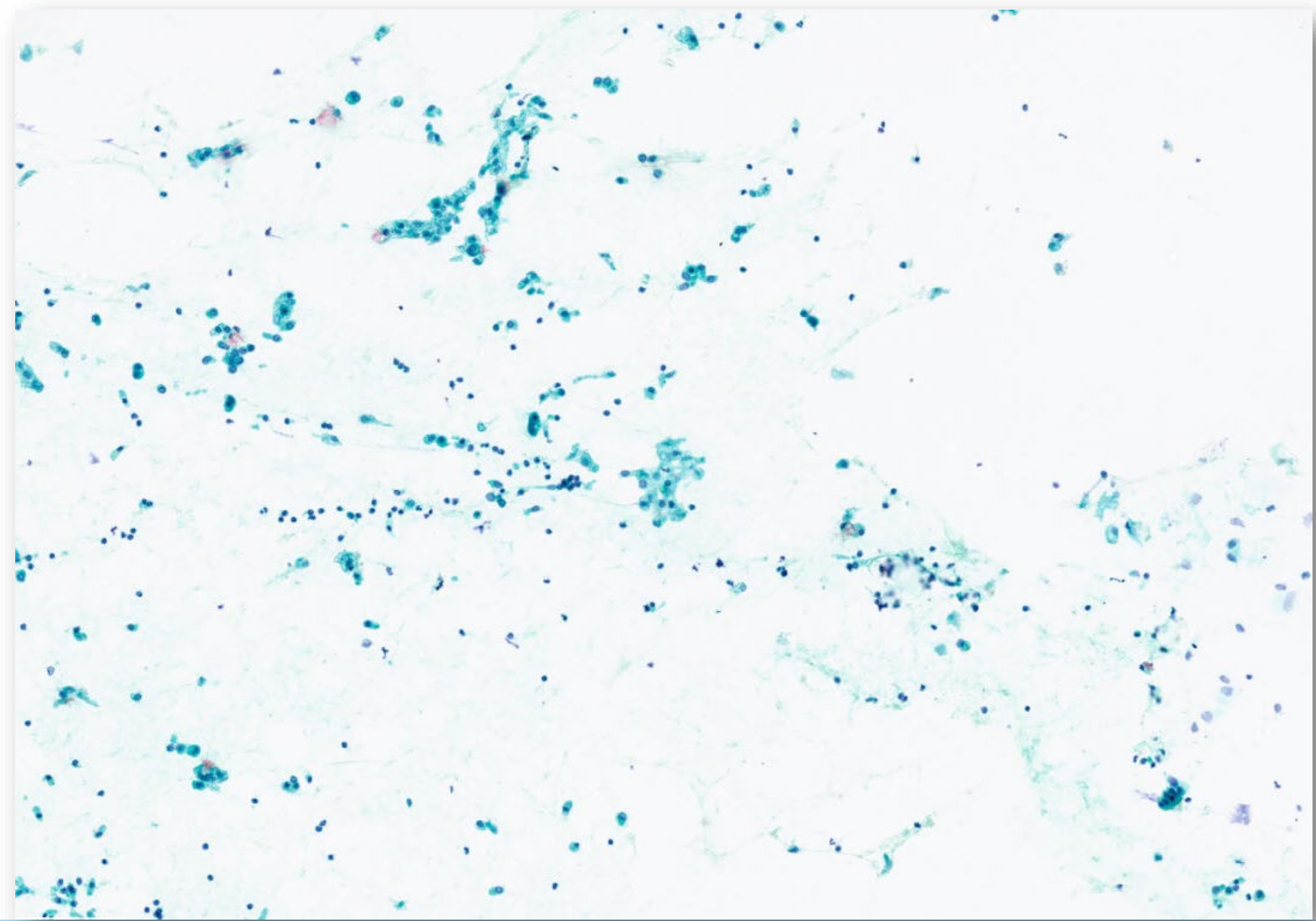
検体: 膵組織

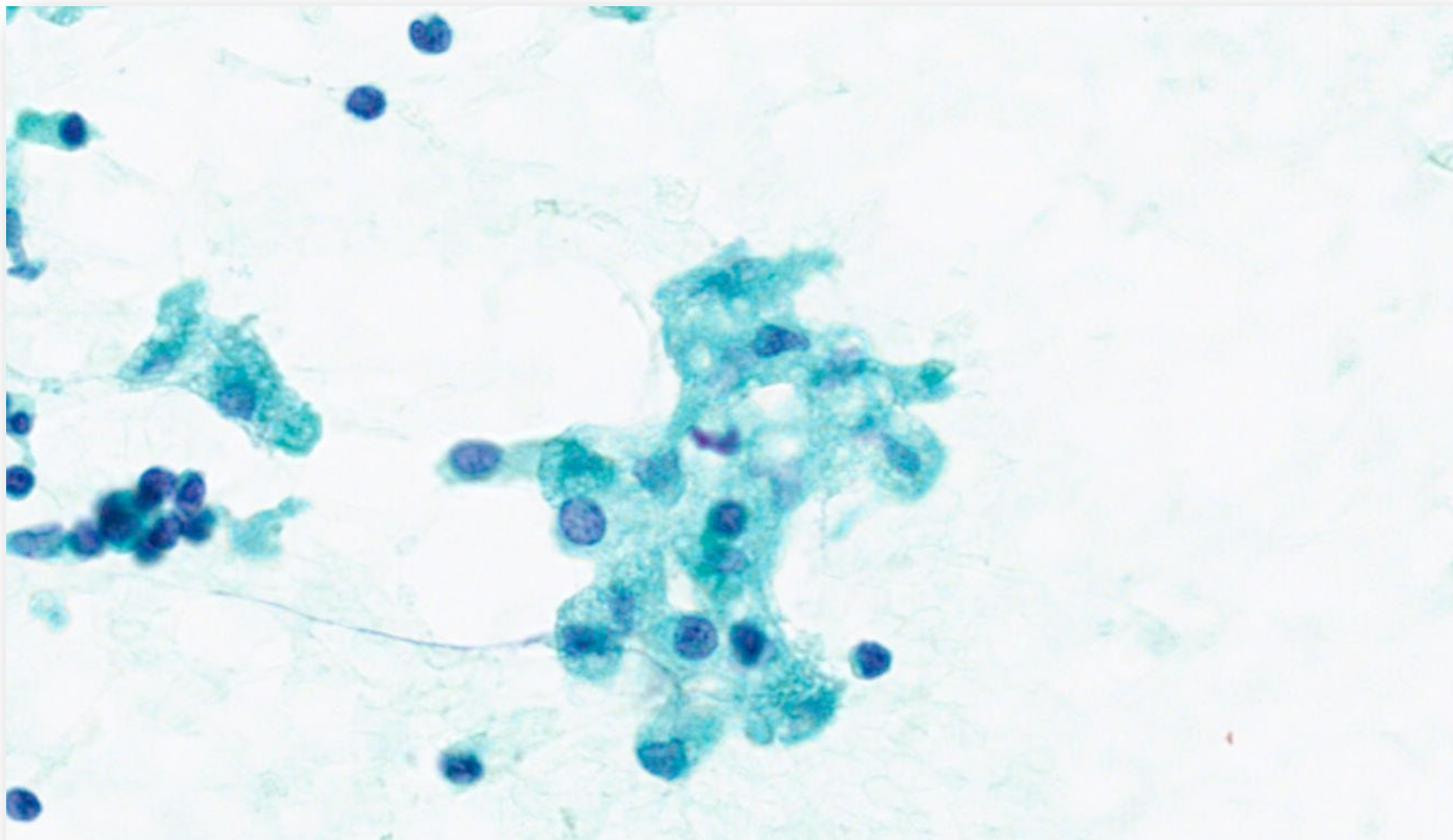
採取方法: EUSFNA

染色: Papanicolaou染色

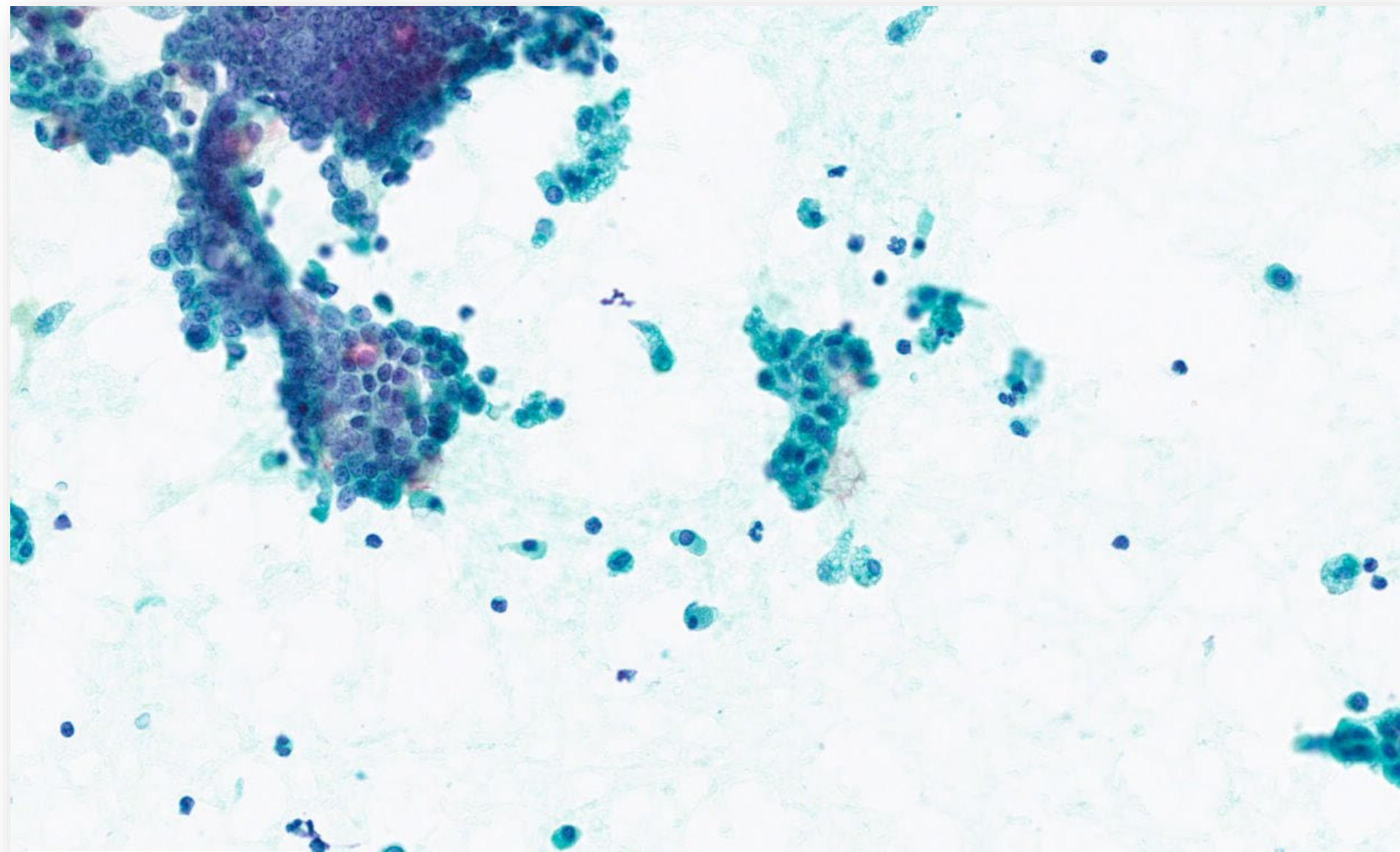
# CT画像

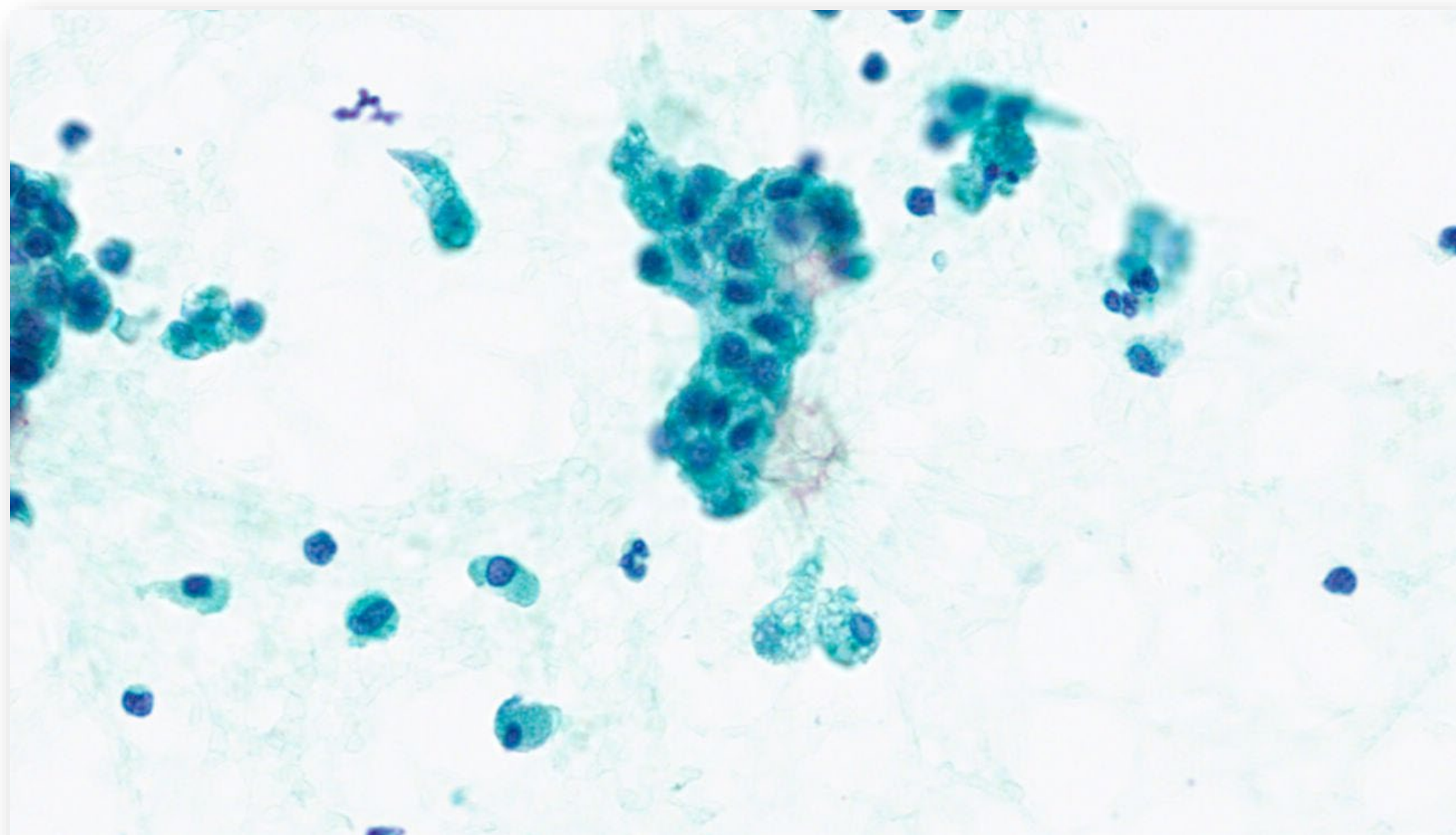












# 細胞所見のまとめ

(背景) 清明

(採取量) 少

(細胞間結合性) やや緩い

(構造) 充実胞巣

(細胞の大きさ) 小型で比較的均一

(細胞質) 淡い～泡沫状

(核所見) 比較的小型類円形, 核切れ込み(-), 中心性, 核小体不明瞭, クロマチン細顆粒状均等分布, 高度のN/C比増大(-), 核大小不同(-)



# 自施設診断

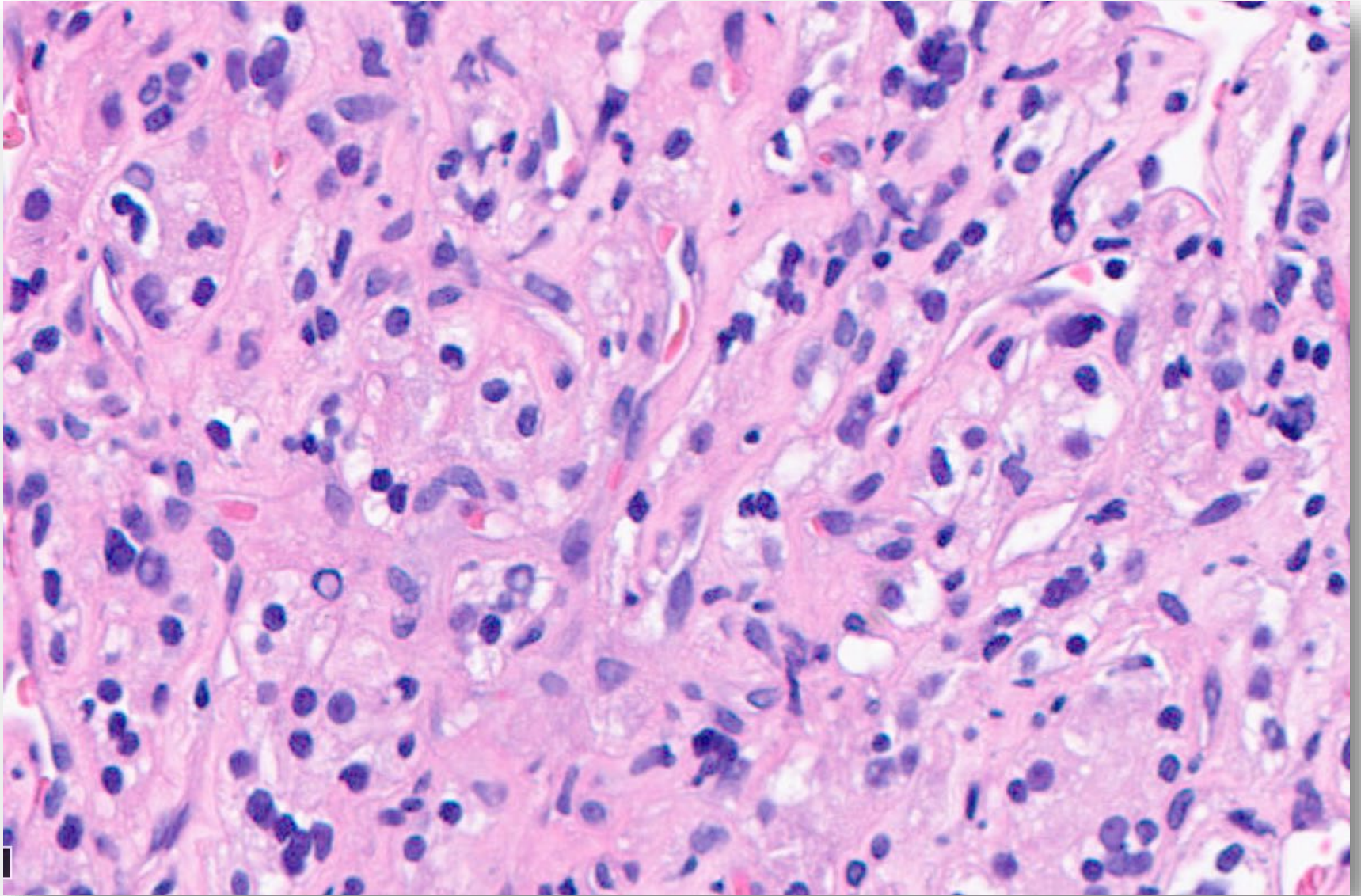
総合判定：異型細胞

標本の評価：適正

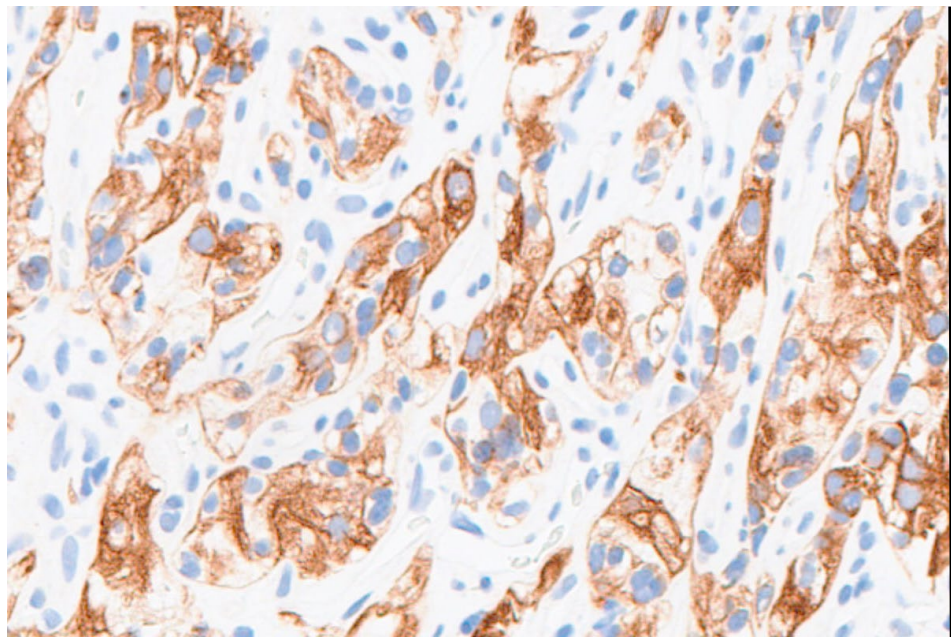
診断：Atypical cells

腎細胞癌の転移の可能性があるが、細胞数が少なくはつきりしない。

# 生検検体



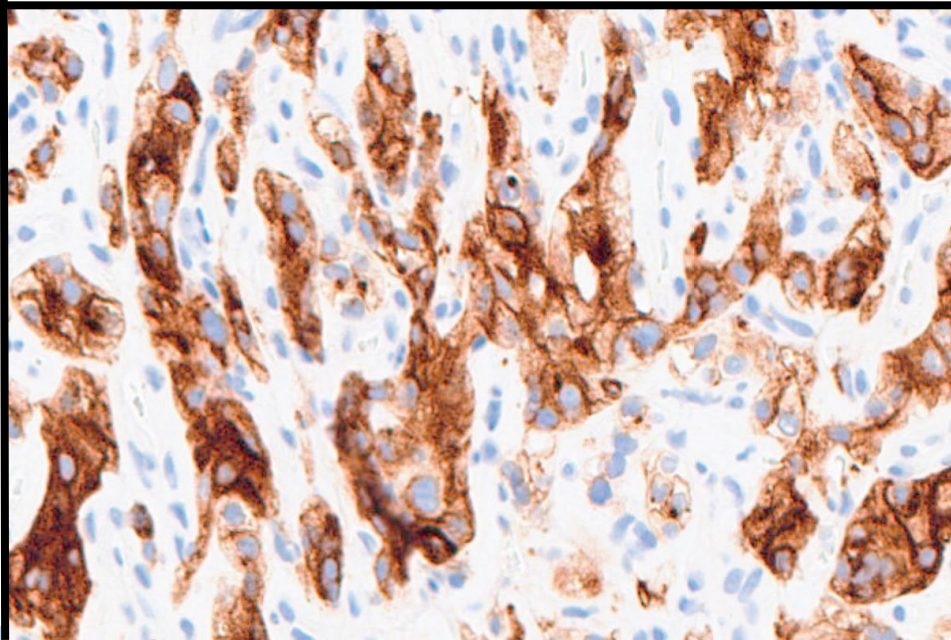
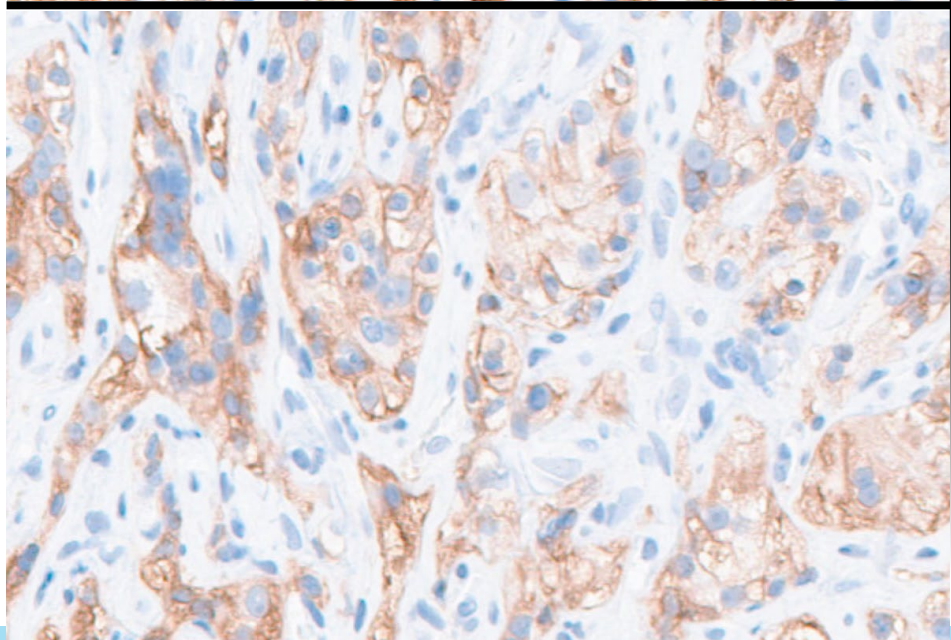




AE1/AE3

CAIX

CD10



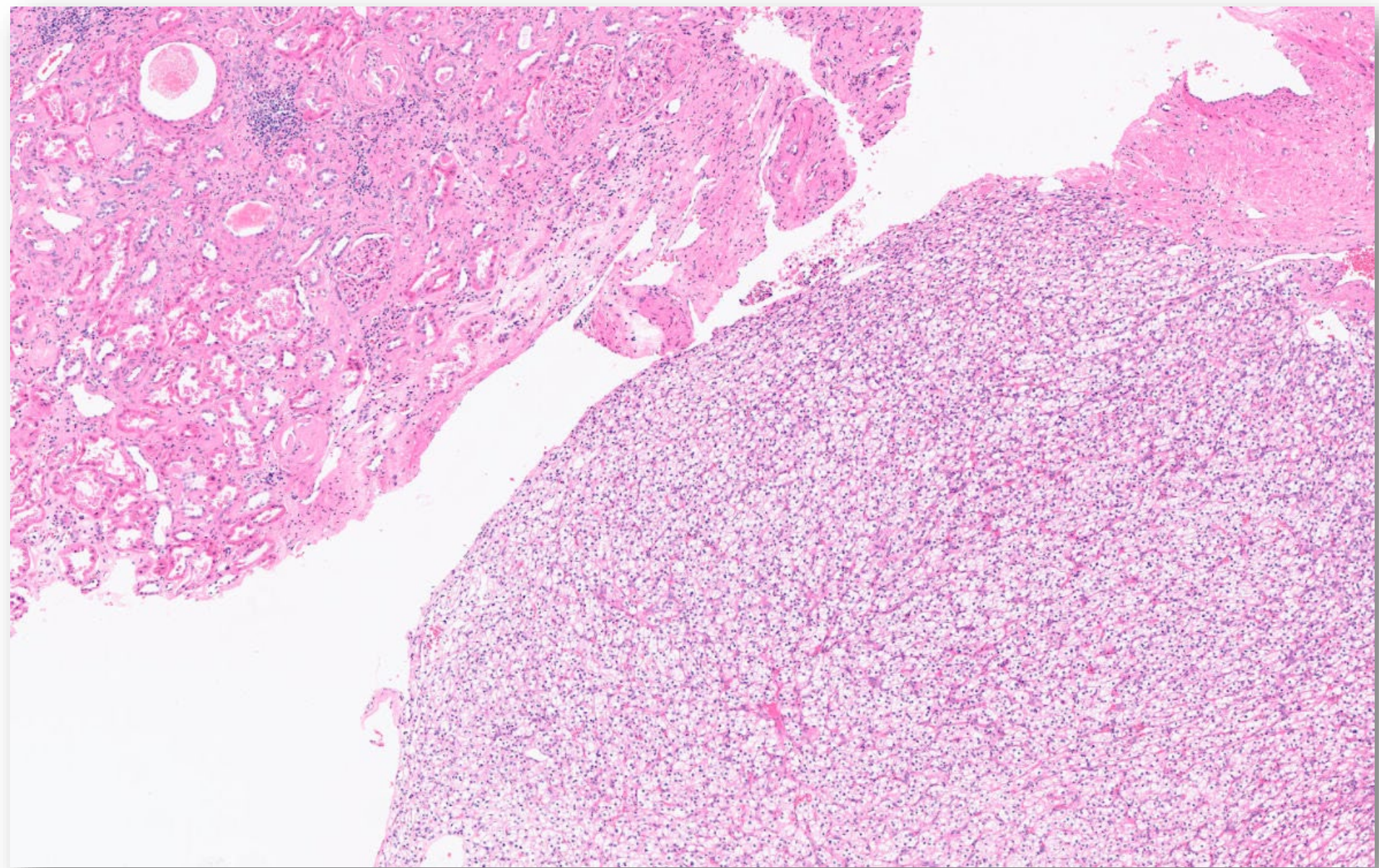
## 【組織所見】

- \* 小型充実性胞巣
- \* 小型類円形核と淡明な細胞質

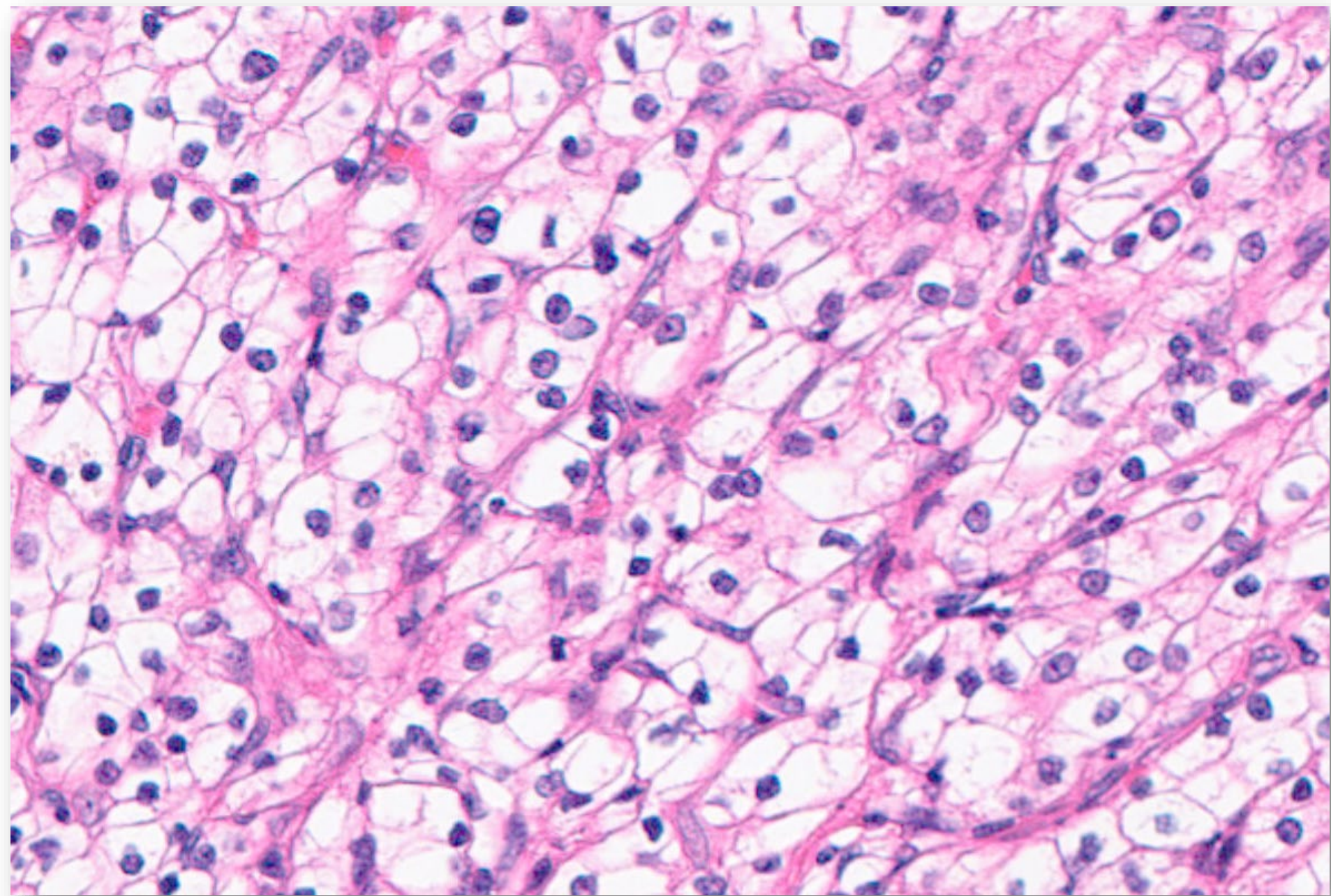
## 【免疫組織化学】

- \* AE1/AE3 (+)
- \* CAIX(+)
- \* CD10(+)









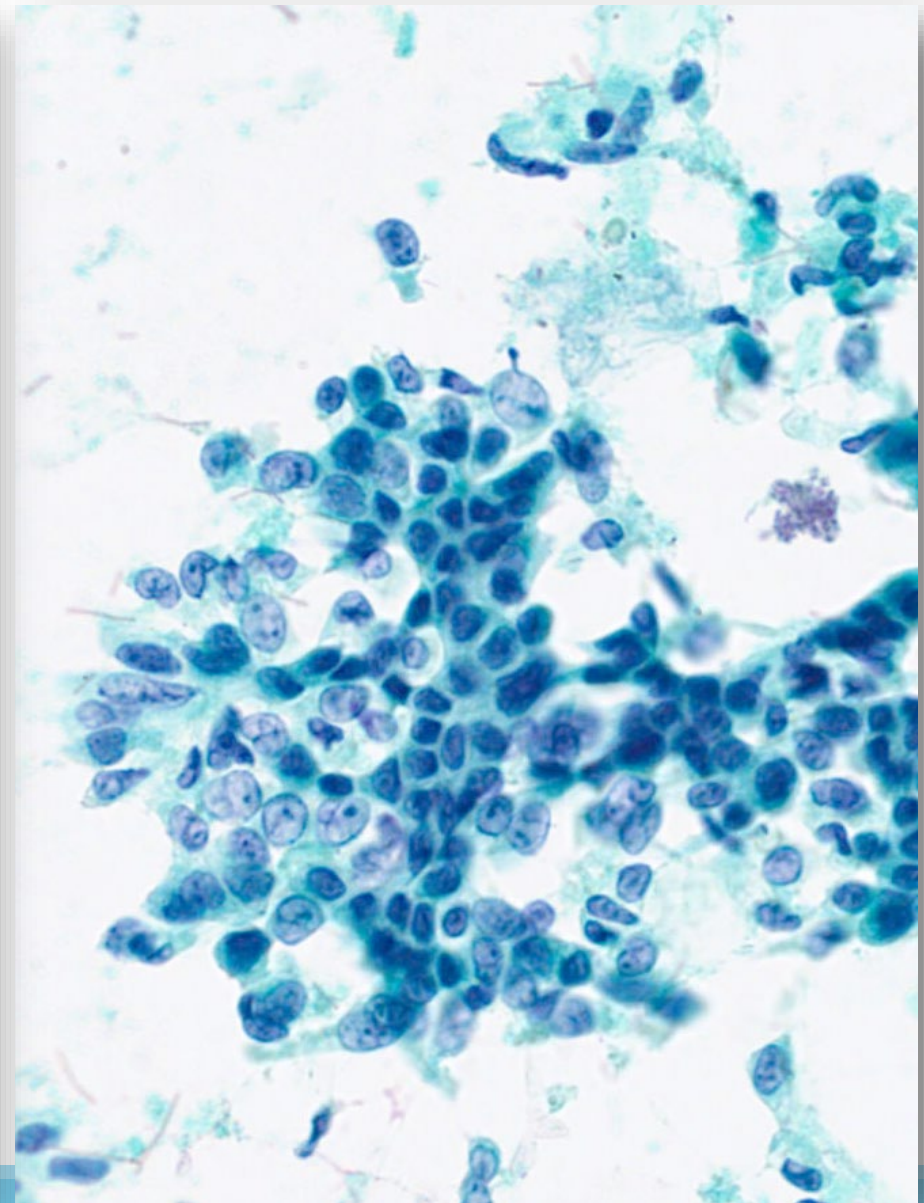
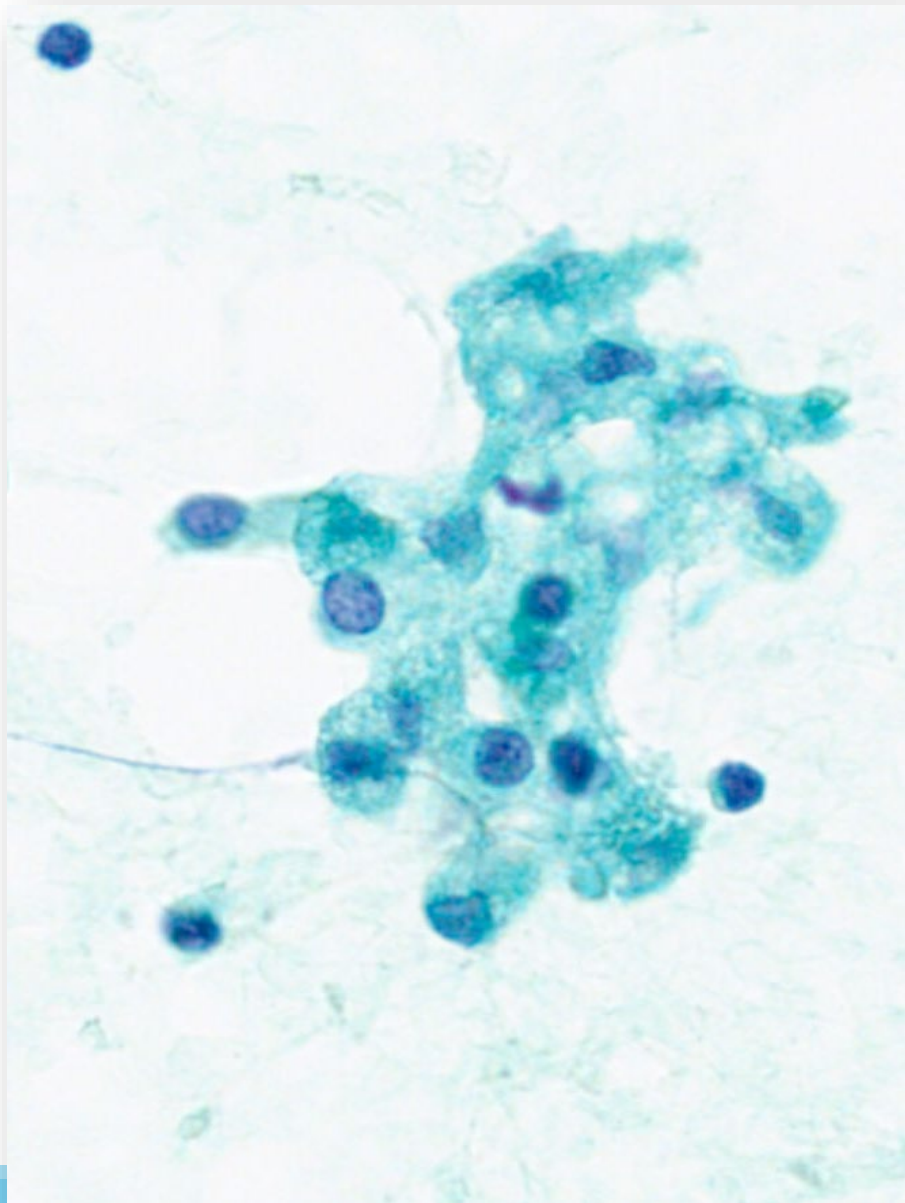
# 最終診断

## 腎細胞癌の転移



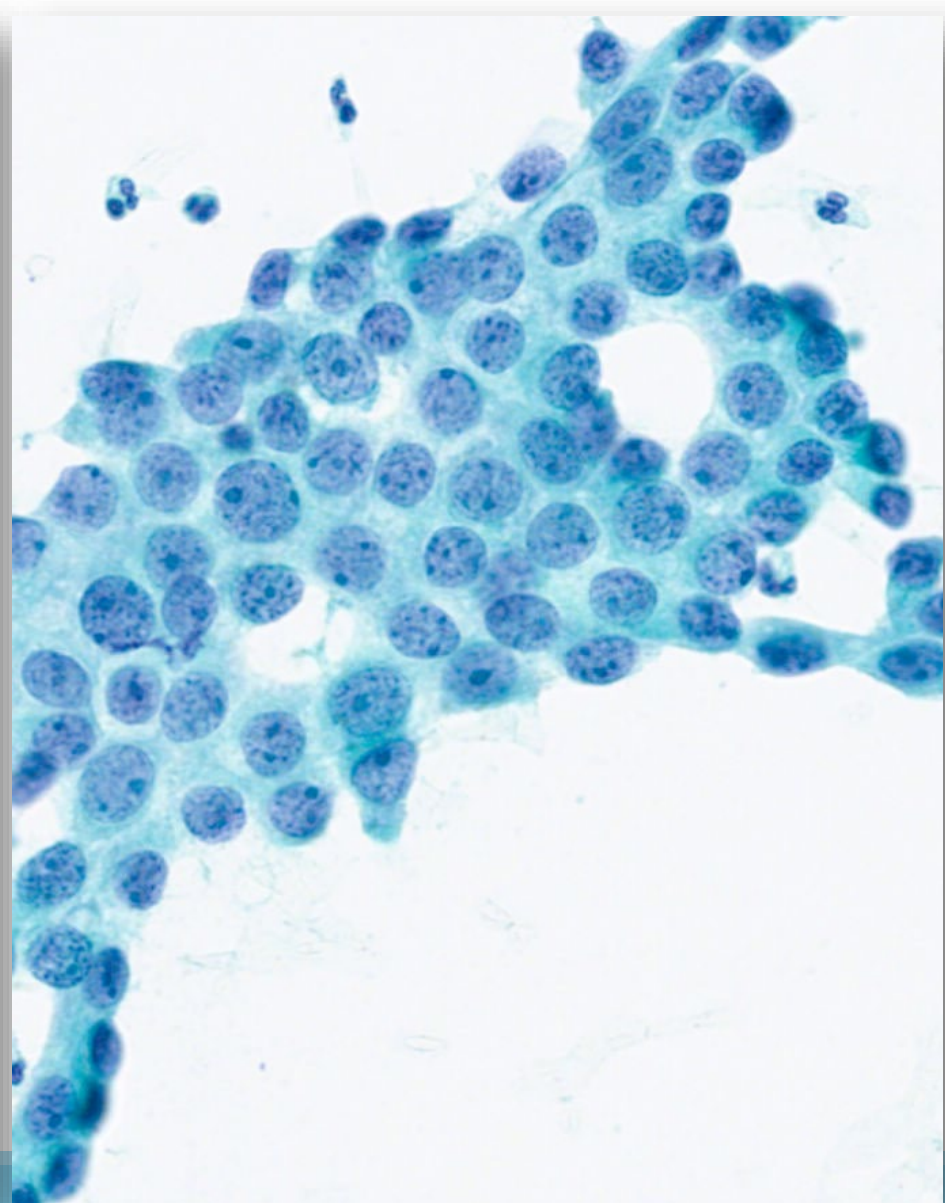
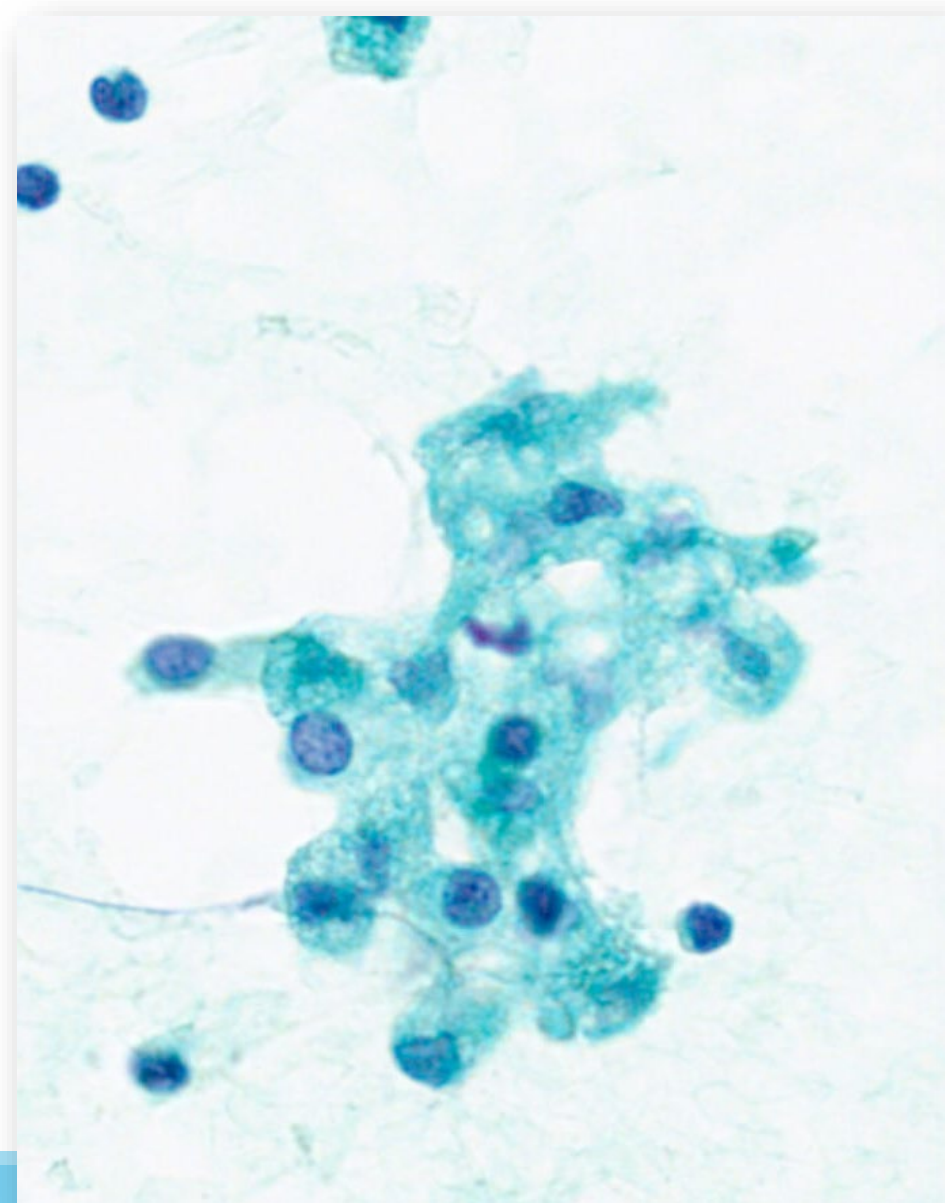
# 本例

# ①胰導管癌



本例

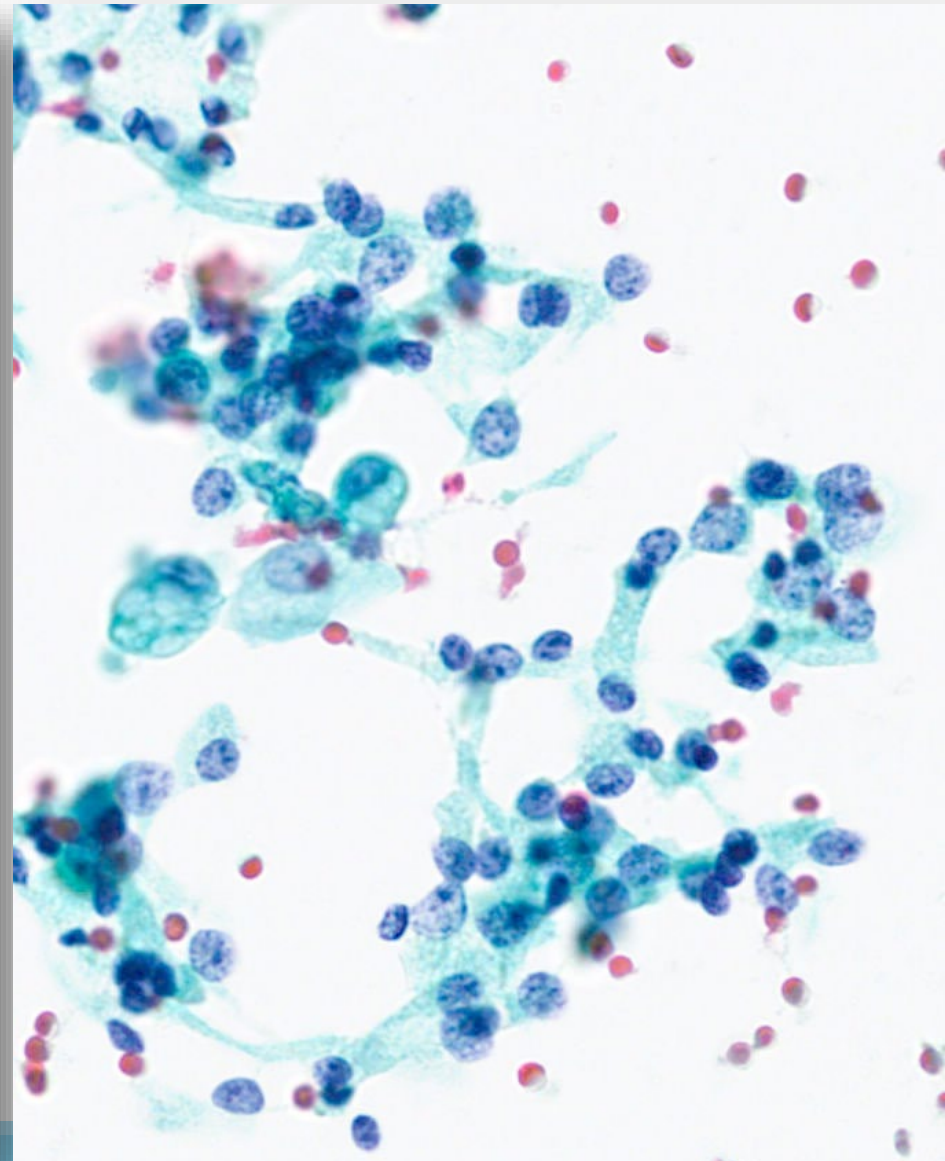
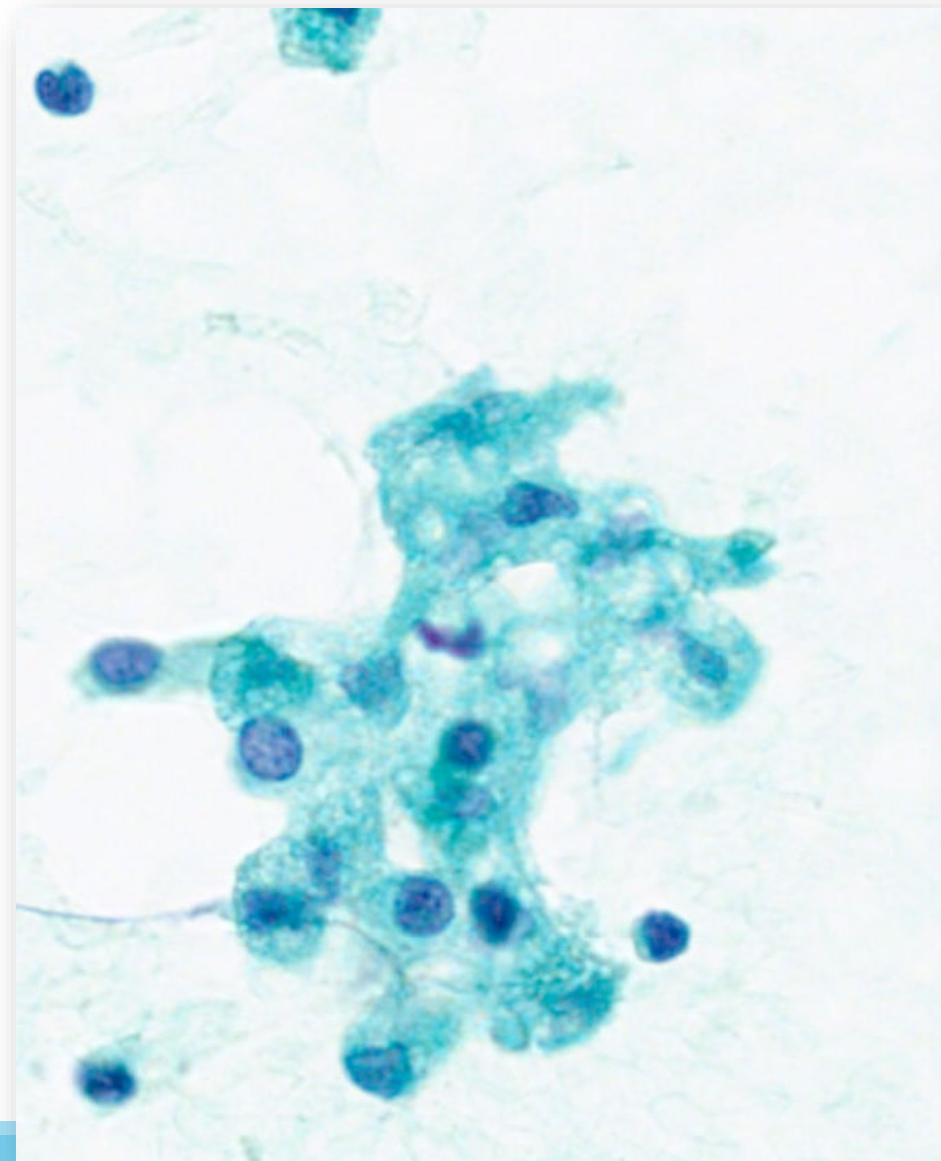
②腺房細胞癌





本例

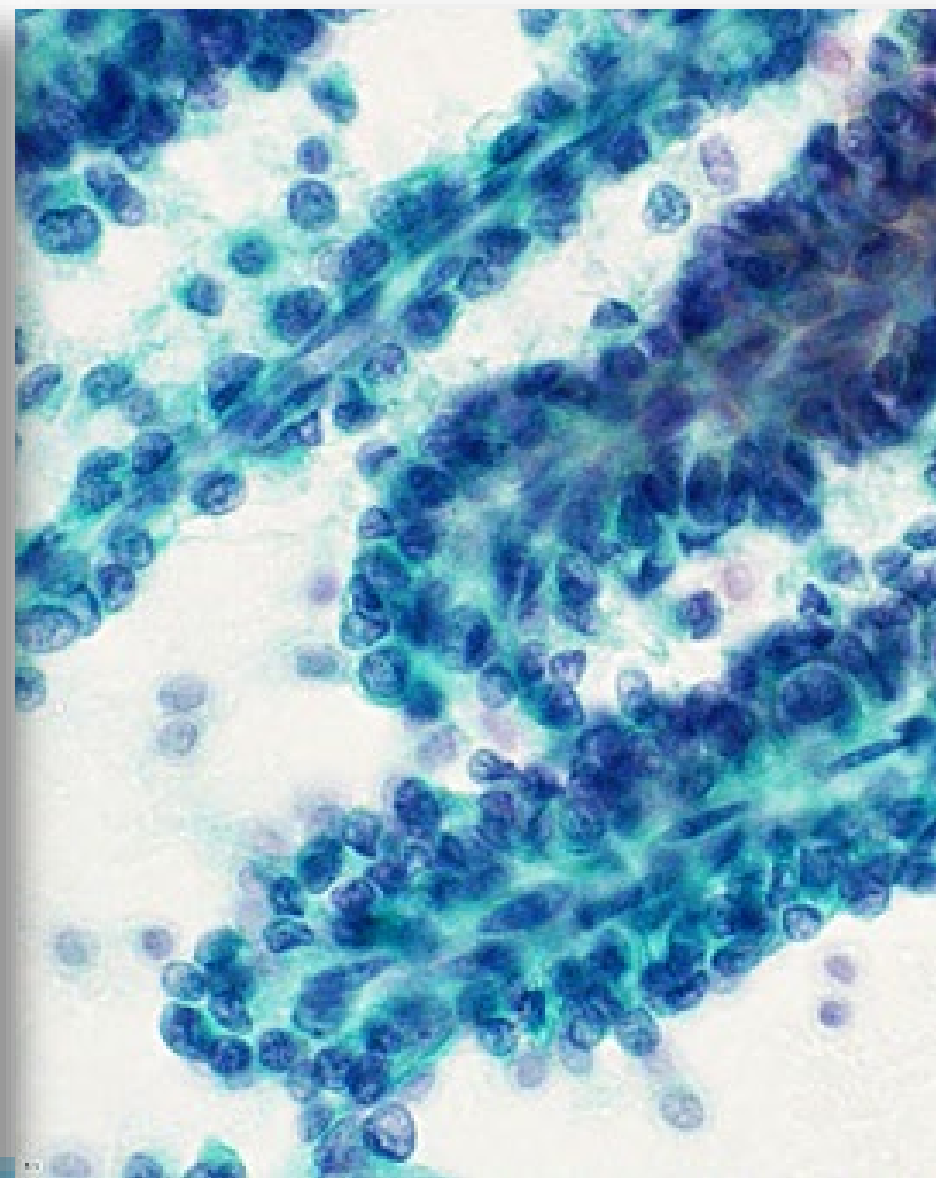
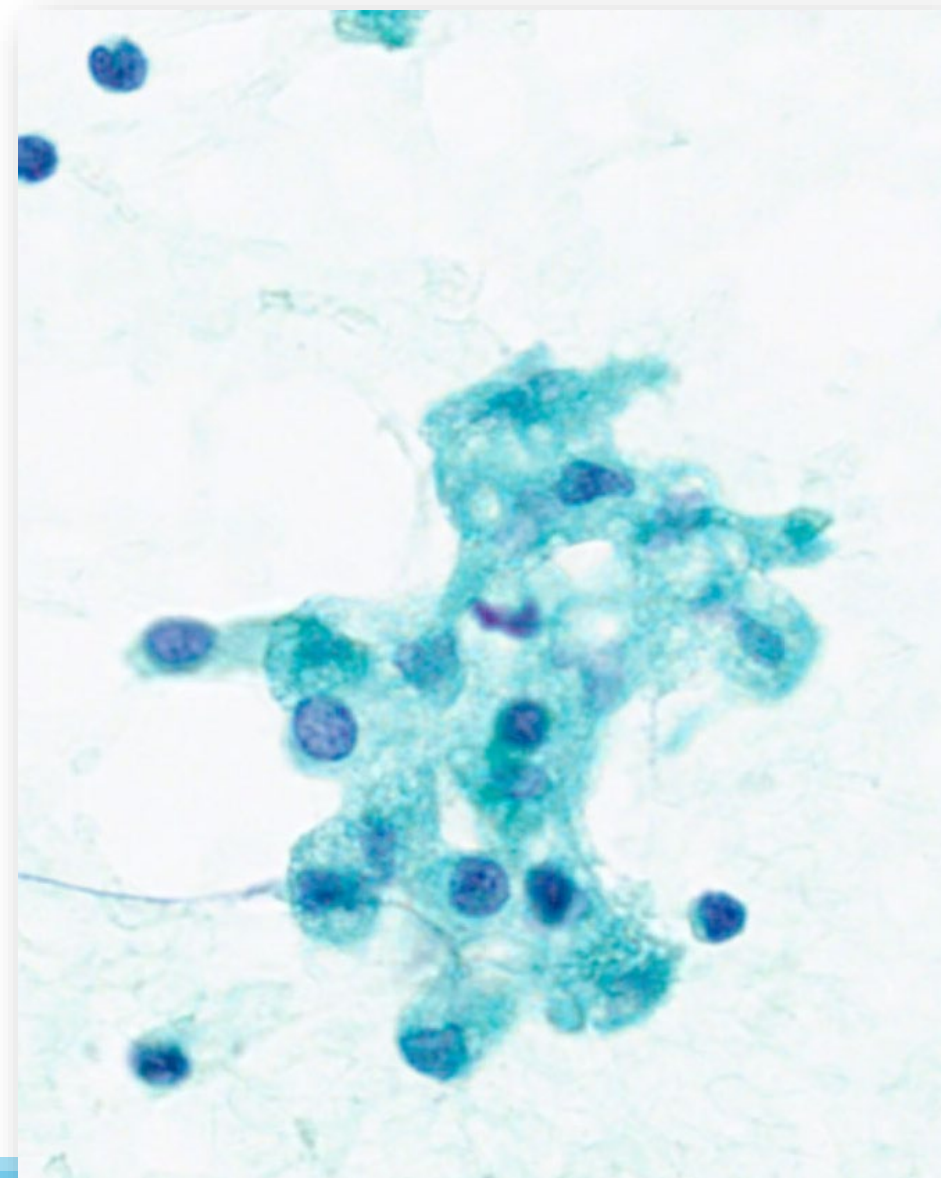
④神經內分泌腫瘤





本例

⑤SPN



# 結語

- \* 腎癌の転移巣の細胞像を呈示した。
- \* 比較的異型が軽度であり、NETやACCが鑑別に挙げられやすい。
- \* 診断の確定にはPAX8, CD10, CAIX等の免疫染色が有用である。
- \* 臨床歴の確認が最も重要である。